



## 節句人形の

# 『素朴なギモン』コーナー

Vol. 79

## 歳の市

12月13日は「正月事始め」と

いって、正月を迎えるための準備をスタートする日です。この頃から大晦日にかけて各地の神社や寺などで行われる市を「歳の市」と呼びます。12月にその年最後の縁日を行う神社や寺が多く、正月飾りやお節料理の材料などが売られ、この日を歳の市と呼ぶようになりました。歴史や各地の歳の市を調べました。

### 歳の市のさまざまな呼び名

歳の市は「暮市」「節季市」とも呼ばれる。他にも年の瀬が押し迫ってからの市が立つことから「詰市」(※詰めは端、きわといった意味がある)と言ったり、年内に売り切るために安い値段、捨て値で売ることから

「捨て市」と言ったりする。

歳の市は、江戸時代から盛んに行われるようになったと言われている。そもその始まりは、交通や物流が発達していなかった時代に、正月の準備のために、注連飾りや門松といった正月飾りをはじめ、農産物や海産物を互いに持ち寄り売り買ひしたことでとだと考えられている。そこで得た収益で正月に必要な道具や着物を新調して、新年を迎えた。こうして歳の市は、正月に必要となるあらゆるものが揃う市として定着していった。正月飾りや正月の遊び道具、お節料理に欠かせない食材などが市に並ぶ。他に台所用品や日用品も多く販売されている。日本には新年を迎える前に身の回りの物や、道具を新しくするという習慣が昔からあったためだ。

### 各地の歳の市

#### 浅草寺歳の市(羽子板市)

東京都台東区浅草にある浅草寺の境内において、12月17～19日の三日間行われる。浅草寺歳の市は江戸時代から続き、南は現在の浅草橋付近まで、西は松坂屋上野店付近まで露店が並ぶほど賑わった。現在はほぼ羽子板市だけとなり、歌舞伎や舞踊の名場面、その年に活躍した著名人などを押絵にした羽子板がところ狭しと並ぶ。

#### 薬研堀不動尊納めの歳の市・歳末大出庫市

東京都中央区東日本橋の薬研堀不動院付近で、12月26～28日の三日間行われる。かつて東京で歳の市は深川八幡を皮切りに各地で開かれ、最後を薬研堀が

飾った。「納めの歳の市」と言われる理由はそこにある。始まりは江戸時代で、当初は梅の盆栽を売っていたことから「梅市」とも呼ばれた。

#### 世田谷ボロ市

東京都世田谷区世田谷の代官屋敷を中心にしたボロ市通りで、12月15・16日、1月15・16日に行われる。小田原城主の北条氏が天正6(1578)年に世田谷新宿に楽市(無税の市)を開いたのが始まり。明治20年代になり古着やボロ布を主に扱うようになり「ボロ市」の名が定着したと言われている。

他に、関東地方で一番早く開かれるだるま市として有名な飯泉観音だるま市(神奈川県小田原市)などがある。



2022年の様子  
浅草寺歳の市(羽子板市)

《監修》林直輝(日本人形文化研究所所長)／参考資料 新谷尚紀監修『ボプラディア情報館 年中行事』(2009年、株式会社ボプラ社)、河合敦監修『歴史群像シリーズ特別編集 図解、江戸の四季と暮らし』(2009年、株式会社学智研究社) など